

災害から身を守る

高山・大原断層帯(イメージ図)

—断層



平成16年の台風23号で被害を受けた岡本橋



平成23年に発生した丹生川町地内の土砂崩れ



活火山「焼岳」



平成16年の台風23号で発生した江名子町地内の土砂崩れ



平成23年の東日本大震災で被害を受けた奥飛騨温泉郷地内の市道



私たちの住む高山市は、南海トラフの巨大地震や高山・大原断層帯などの地震発生が想定されるほか、5つの活火山（焼岳、御嶽山、乗鞍岳、アカンダナ山、白山）による火山噴火の恐れ、また豪雨や台風による土砂災害・洪水の発生など、たいへん多くの災害が考えられる地域です。自然災害を防ぐことはできませんが、災害による被害を最小限にとどめる、いわゆる「減災」は可能です。減災には、市民のみならず一人ひとりの日ごろからの備え（自助）や地域による助け合い（共助）、そして国や自治体による災害への備え（公助）が大切です。いつおきてもおかしくない災害に対して、日ごろからできることを今一度確認し、「もしも」の時に備えましょう。

TOPIC 高山市で起こりうる災害

■ 地震

海溝型地震では、南海トラフの巨大地震が発生した場合、マグニチュード9クラスの地震が発生すると考えられており、市内では震度5強程度の揺れが観測されると想定されています。

また、市内には南西から北東方面にかけて高山・大原断層帯とよばれる活断層をはじめ、複数の断層もあり、内陸直下型地震の危険性があります。

■ 火山の噴火

活火山である焼岳や御嶽山、乗鞍岳、アカンダナ山、白山。直近では焼岳が昭和37年、御嶽山が平成19年、白山にいたっては1659年に噴火しました。現在では、全ての火山で火口周辺に噴火の兆候は認められていません。

市では、岐阜県や隣県、関係機関と連携し、専門家の調査も交え、噴火時の被害想定や避難対策などについて検討を重ねています。

■ 土砂災害・洪水

市内には土砂災害警戒区域が多数あり、急傾斜地の崩壊や土石流、地すべりなどの被害が想定されます。

同様に市内には宮川、飛騨川、庄川、高原川などをはじめ多くの河川を有しており、集中豪雨による氾らんなど、水害に対する注意が必要です。

市では、土砂災害や水害の恐れが想定される場合、監視機器やパトロールにより情報を収集し、土のう積みや避難勧告の発令などの対応を行います。



自宅で準備しよう

①家具や家電を固定しましょう



タンスや食器棚などは突っ張り棒やL字金具などで固定しましょう。扉には開閉防止金具を取り付けたり、床面の隙間を埋めることも重要です。

②非常用持出品を準備しましょう

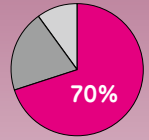


緊急時にすぐに避難できるように、食料品や飲料水など非常用持出品を最低3日分用意しましょう。予備の乾電池やすぐに履ける靴なども準備すると効果的です。

災害から身を守る

その①

自助



～備える、逃げる～

災害が起きたときは、自分や家族の命を、まず自分で守ることが重要です。そして、災害が起こる前に「今、何ができるのか」を家族で話し合ひましょう。

避難路と危険箇所を確認しよう

①ハザードマップで確認しましょう



自分が住んでいる付近の危険箇所と避難経路、避難所などを「ハザードマップ」や「避難マニュアル」であらかじめ確認しましょう。



ハザードマップと避難マニュアルは危機管理室、各支所でお渡ししています

②実際に避難してみましょう



非常用持出品を持って、最寄りの避難所まで避難してみましょう。災害時には、外出前に電気のブレーカーを切ったりガスの元栓を締めることをお忘れなく。

また、隣近所に声をかけて、安否を確認しながら避難することも重要です。

問合先

都市整備課
☎35-31-59

また、耐震補強工事が必要と診断された木造住宅をお持ちの方に対して、最大で180万円の助成を行っています。住まいの地震対策にぜひ活用ください。

建築物の種別	補助率	補助限度額
木造戸建て住宅		無料
木造共同住宅等	2 / 3	2万円/戸
木造以外の住宅	2 / 3	8.6万円
その他の建築物	2 / 3	100万円

市では、住宅の耐震診断を助成しています。

住まいの地震対策をしましょう

地域の自主防災活動に参加しよう



災害時には隣近所の助け合い（共助）が大きな力を発揮します。

みんなで声を掛け合い、逃げ遅れを防いだり、避難者の安否確認をするなど、町内会単位の自主防災組織の活動は大変重要です。

市では、自主防災組織のさまざまな活動を支援しています。「初期消火の方法」「避難困難者運び出す方法」「自主防災組織の役割分担に応じた行動」など、ご不明な点はお気軽にお問い合わせください。

災害から身を守る

その②

共助

20%

～絆で地域を守る～

阪神・淡路大震災を契機に、「自分たちのまちは自分たちで守ろう」という意識が高まり、市内全町内会で自主防災組織が結成され、地域防災活動の中心的な役割を担う組織として活躍しています。



■ **情報発信**
災害時に正確な情報をいち早く入手し、市民のみなさんにお知らせするため、いろいろな媒体を整備し運用します。

① **防災行政無線**
市内272カ所に整備しています。拡声器には無線電話が備え付けられ、市役所本庁と通話ができます。

災害から身を守る

その③

公助

10%

市の災害への備え

情報の伝達、備蓄品の確保、他自治体や事業所などとの連携など、災害に対応するため市では一層の体制強化に努めています。

②メール配信サービス

携帯電話に、市メール配信サービス「安全安心」を登録すると、災害などに関する情報がメールで通知されます（通信料がかかります）。

登録にあたっては、次のアドレスを入力、またはQRコードを読み込み、手順に従って登録します。

<http://www.city.takayama.lg.jp/i/>

lg.jp/i/



③高山防災ラジオ

緊急防災情報を自動で放送するラジオです。緊急地震速報や避難勧告情報、また毎日昼と夕方のお知らせも自動で放送します。

●市の災害備蓄・応援協定

市では災害時に備え、非常食や毛布などを備蓄しているほか、市の要請に基づき、協定を提携している関係団体からも支援助力が届けられます。

また、近隣市をはじめ自治体や関係団体との災害時相互応援協定を結んでおり、有事の際は必要な支援を得て対応します。

④「緊急速報」メール

市が携帯3社（NTTドコモ、KDDI、ソフトバンク）のネットワークを使って災害発生時に携帯電話のメール配信で、災害情報や避難情報を伝達します。あらかじめ登録する必要はありません。



利用料300円のうち、市が100円助成します（平成25年3月まで）

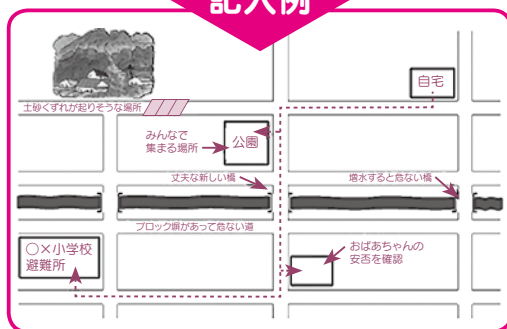
お求めは、高山電機商業組合加盟店の高山防災ラジオ取扱店までお問い合わせください。

わが家の防災マップ

● 記入しておきたいこと ●

家族の集合場所、危ない場所（がけ、橋、川など）
避難所、避難経路ほか

記入例



非常用持出品の確認 (チェックリスト)

非常時に必要なものを事前に確認し、準備したら
 チェックしましょう。

▼貴重品

- 現金
- 印鑑・預金通帳
- 免許証・保険証

▼衣料品

- 着替え
- タオル
- ハンカチ

▼電気機器

- ラジオ
- 携帯電話
- 懐中電灯
- 乾電池

▼医療品

- きずぐすり・消毒薬
- 包帯
- 絆創膏
- ティッシュ
- ガーゼ
- コンタクト用品

▼食料品

- 飲料水
- 非常食

▼その他

- リュック
- 雨ガッパ
- ヘルメット

緊急時の連絡先

■ 行政機関

高山市役所 ☎0577-32-3333 各支所

■ 消防・警察

高山消防署 119 ☎0577-32-0119

高山警察署 110 ☎0577-32-0110

■ 救急医療機関

救急医療情報案内 ☎0577-34-3799

高山赤十字病院 ☎0577-32-1111

久美愛厚生病院 ☎0577-32-1115

飛驒市民病院 ☎0578-82-1150

問合せ 高山市危機管理室
☎0577-35-3345